



各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会

虹の通信 第37号

2023年8月 1日

～親友「だった」N君のこと～

平成16年（2004年）3月17日（土）特養かりん開所式典が当時の山本捷雄市長にもご参加頂いて盛大に開催されましたが、その場には私一家の友人の一人として招待した和服姿のN君の姿も有りました。

私には付き合ってから50年を超える親友も何人かいますが、「親友だった」N君は一種特別な形で45年間交流してきました。が、「だった」に突如変わったのは2012年9月（平成24年）日本の外務省からの問い合わせからでした。タイ王国の避暑地プーケットの海で遭難し水死した日本人で「N君」と言いますが貴方が身元保証人との資料もあり、ご存じですか？」と。私は「もちろん友人です」と答えた。

彼は北海道札幌市の出身で、有名な道内の進学高校出身者でもあつたが、高校時代に家庭が崩壊、妹と母親は別になり、父親との関係もギクシャクして卒業後、小田原市の日立の工場に就職、大学進学のための資金を貯めようとしていたようでした。

和服を着てお茶を習ってもおり、彼の下宿は6ヶ所程変わったが、整理整頓が確りされて、様々な分野の本とクラシックのレコードが並んでいました。

1970年代疾風怒濤の時代では私や志のある友人達と議論や杯を重ね、積極的行動もし、成田空港反対同盟の支援にも参加して「アサヒグラフ」の写真に彼の姿も確認できました。その後有名な民間ペイント会社研究室の研究支援員として働きながら、旅行を趣味として、また、英語、フランス語、ロシア語を学びながら、国内だけではなく海外にも出かけ、特に東欧やロシア地域へ時折旅行し、その過程で、国内旅行添乗員資格を取得、更に国際旅行添乗員までになり、大手旅行会社の下請けとして各国を廻っておりまして。しかし、不思議な男で自分の家族や経歴は殆ど喋らず、読破した本の話をしたり、冗談を言ったり私の家族や弟妹、子供達に外国の情報話したり、

また、時折農作業の助っ人もし、私の家で宴を囲み、明るく過ごしておりまして。

平成時代中頃以降から網膜剥離が出て、ロシアで眼科の特殊治療を受けるようになり、時折、旅行途中で受診した話から何でそんなことが可能なのか「？」不思議に思うことも有りました。そして、その死後知ったことは私に一言も話さず、住所を金沢市へ移す手続きを取った後そのまま放置されていたことです。彼の後ろ姿に何か大きな影があるような気がしてなりません。45年間の付き合いの友人で、隣の大木が消えたというのが印象です。彼の遺骨は46年間音信不通であった妹さんに引き取られ、北海道に渡りました。その軌跡は伝わらないまま。

以 上